

親愛な神谷様の信業頃請乃一

十月から日暮日は、日給六錢をかゝり、月一臨時休業と日一や二回の生活費がかかる。したがふと、今や二ヶ月と一ヶ月の間隔をやつてくることは、直に工場用鎌の前だ。柄橋の兄弟は、朝の番をとつて暮すんだと、結果を因んで使用依頼下反対だ！  
柄橋依頼依頼反対だ！ 首切り反対だ！ 临時休業依頼反対だ！ 等々を要  
求され、かゝけてストライキ委員会を作つて、ストライキの準備中だ。等々を要  
求する事で、柄橋太郎は木村英二郎、東京一二三、等々を連絡下り首切り反対とストラ  
イキと左東と右西は日本化成の協議下り佳川三郎の争議で、首切りを一月と六臨休  
セーフハント、千葉開闢を一月と一月、千葉那須を出す二月、千葉中の松を  
出で二月、千葉の下る猿渡者を出さないと甚つた。根が四号水全部を放つた。  
親愛なる印答文書だ！

卷之三

文化書房側では忽ち櫻樹の死罪と爲め一々考るぞ！  
櫻樹の死は施達金汚物者の死に因起だ！

松樹屋不<sup>レ</sup>勝右衛門<sup>ス</sup>爲<sup>ル</sup>年<sup>三</sup>十二年<sup>二</sup>月<sup>一</sup>日<sup>ノ</sup>イニテ<sup>シテ</sup>是<sup>ハ</sup>公<sup>ノ</sup>子<sup>ニ</sup>幸<sup>ト</sup>慶<sup>ム</sup>基<sup>キ</sup>金<sup>カ</sup>通<sup>ル</sup>一  
九三〇、一三 日奉化學<sup>モ</sup>壽<sup>ム</sup>御<sup>ム</sup>組合<sup>モ</sup>東京大部

零  
才  
書

- 首印經對友村  
臨時林葉使封久對  
櫻桃工陽 謙溪經對友村  
爭議三林少穎惟者三絕對出其心下  
爭取中日終金額六論  
爭議基金會水側負担  
一隻金三制值上  
一山歌句十五文  
一止致牛南改

一臥主長八萬玉一連空常湖一月前為余使上中一月行  
一公休廿日給金數支統各款一應事項一月零一號前此一月行  
一年二四宣期年終利承  
一年而竟與本經票入  
一時因未作書絕待及付  
右要求候也